

てがみでこんにちは

—もうすぐ、大人になるキミたちへ—

相手がどんなふうに感じているかなんて、僕、ぜんぜん考えもしなかつたんです。

国語の時間、先生に指名されて教科書を読むと、そんなに難しいことが書かれているわけじゃないのに、つかえたり、読み間違えるもんだから「ここは中学校なのに小学生が一人混じっているんだ」と言ったら、クラスみんなが笑ったので、それからその子のことを「小学生、小学生」と呼んでいただけだったんです。

「小学生」と呼ばれた子は「学習障害」という、読み書きの成長がほんの少し遅れてしまう病気でした。その子が毎日家に帰ると泣いていたという話を聞いて、自分が授業中に発した言葉が、相手をひどく傷つけていたことを知った中学生の告白です。

子供時代は、まだ「他人の立場から自分を見つめること」ができない人もいて、時にきついことを言ってしまったり、気がはずにいやなことを平気でしてしまうことがあります。

でも、誰もがやがて大人に成長していきます。その過程で、世の中の仕組みやいろいろな人の生き方などを学び、だんだんと他人の立場から自分を見つめることができるようになっていかなければなりません。

これからの世の中を堂々と生き、これからの新しい社会を築いていくために、知っておくと必ず役に立つことを書いてみました。他人の立場から自分をしっかり見つめることのできる、立派な大人になってください。

第一章 勉強の意味…なぜ勉強するのか



自分の力を発揮するには

オリンピックやプロの競技で活躍するスポーツ選手。ノーベル賞を受賞した人たち。そのほとんどの人が「親や周囲のおかげで今の自分がある」と言います。

なぜ周囲の人のおかげなのでしょう？ それは、あらゆることで親や周囲の人のお世話になって今日までできたということはもちろんですが、もう一つ言えば、その人たちが喜んでくれるからです。

どういうことかと言うと、私たちは「人に喜んでもらえること」が自分の喜びになるからです。成績が上がった、技術が向上した、というあなたを見た両親や周囲の人たちは、どのような表情をするでしょうか。きっと笑顔に違いありません。

あなた自身はどうでしょう。周囲に喜んでもらえた時、それが励みになるはずですよ。

「両親や周囲のおかげ」という言葉は「自分が頑張る、周囲が喜ぶ、それがうれしくてま

た頑張る」という循環が「自分を伸ばしてくれた」という素直な気持ちの表れなのです。

しかし、勉強でもクラブ活動でも、時には大きな壁が立ちます。自分なりに努力してもなかなか乗り越えられない……その結果、ついついサボりたい、投げ出したいという気持ちになるものです。そういう気持ちになった時は、両親や周りの自分を育ててくれた人の顔を思い浮かべてください。そしてサボりたい、投げ出したい、と言ってみるのです。どうですか、悲しそうな顔が見えませんか？

両親や周囲の人の顔を思い浮かべることは、時として抑止力になるのです。例えば友達に悪いことⅡ万引きや飲酒に誘われることがあるかもしれません。そういう時にも、自分の幸せを常に祈ってくれている両親の顔を思い浮かべてみましょう。きっと悲しんでいる顔が見えるはずです。その時には、きつぱりと悪い誘いを断りましょう。

私たちは、決して自分のためだけに努力していません。また、他人のためだけに努力していません。努力する、それを喜んでもらう、さらにそれを励みにする、悲しませない、という輪Ⅱ人の和の中で生きています。そういう生き方をしていると、いざという時、力を発揮することができます。

何のために勉強するのか

勉強が嫌いという人は「学校に行かずにもう働きたい」と思うことがあるかもしれません。

しかし、こういう教えがあります。

「学問は自分の為ためにするのではなく世のため人の為にするのである。学生は、学問をするのが本分であり、それが身に付くのは、目上や親の言うことを嫌いやがらぬことである」

勉強は自分のためにするのではない、というのです。毎日の勉強に少しでも使命を感じられれば、先生の話もじっくり聞けるのではないのでしょうか。

勉強をする場合は学校だけとは限りません。例えば社会には、中学校でしっかり勉強し、卒業後も働きながら勉強を重ねて海上保安庁の試験に合格する人もいます。中卒というのは現代社会では就職に関して決して有利には働きません。それでも海上保安庁の採用試験